

TATEYAMA

NOTAM

Vol.6

Hummingbird P.G.C Communication Note.



去る8月30日(土), 31日(日)に白馬乗鞍で開催された”レディースカップ”に参加しました。昨年は選手2名でしたが, 今年は大ギナークラスに塩岡貴子さん、エキスパートクラスに清水昌代さん、昨年も参加した長崎雅美さんと私(高林小百合)の4名の参加になりました。しかし、サポート陣はなんと!! 斉藤君, 松田さん、田中一さん、島倉君, 高井さんの5人で超豪華メンバーになりました。

8月30日, 早朝5時30分に滑川インターに集合。3台の車に分乗し出発! 色々ないきさつと事情により、今回はチャンポン(雅美ちゃん)と松田さんは別々の車になってしまいました。運転する人には精神的安定? を与えましたが、お二人にはちょっと可哀想でした...

< 松田語録その1 >

こんなに早く集合しレディースカップに向けて出発しているにも関わらず、
「今日大会あんの?」 × !....
ちょっと松田さーんって感じ... じゃないですか?

8時頃現地に到着。受付を済ませると、そこにはもう今回の賞品が並べてありました。貴子ちゃんはビギナー2位のフライトスーツ欲しいと言い、私はエキスパート2位のGPSが欲しいとこの時二人で脳天気な話をしていました。天気は良かったのですが、地元の話では”フォローになるのが早いかな?”との言葉を聞きながらテイクオフへ向かいました。地元の話はやはり正しく、ダミーが1~2人飛んだだけでフォローになりました。この時点でエキスパートクラスはキャンセルになり、ビギナーだけ若栗ゲレンデに場所を変えてデュレーションを行う事になりました。全員で下山しましたが、ここは下山する時とても怖い思いをします。(スリル満点)

若栗ゲレンデに到着しましたが、結局強風でビギナーもキャンセルになりました。天気の良いだけに残念でした。この時若栗ゲレンデではサポートで来ている人達がフライトしていました。世界選に出ていた川地さんがネクソンで飛んで(Japanの文字がかっこいい)みゆきさんのグライダーに清さんが乗ったり、(ちなみにみゆきさんのネクソン)その他セクターなどみんなかっこ良かったです。この時エアロタクトが”アクションの写真が撮りたい”と言うことで、斉藤君がモデルパイロットとしてテイクオフ。テイクオフも一発で決め、ローリングしたり超かっこよく、皆でほれほれと見とれていました。

この日は斉藤君以外は飛ばずじまいでしたが、恒例のパーティーに向け特にサポート陣は本来の目を果たすべくはりきっている様でした。

< 松田語録その2 >

ネクソンのことを「ネクターだっけ?!」.... 爆笑。

昨年立山チームはパーティーに遅刻したので、今年は早めに行動し一番乗りでした。後から思うとサポート陣にはこれがいけなかったのかなと思うのですが、早く着いたので立山チームで一つのテーブルに陣取りました。みんなもそろった頃、何故だか判りませんが半谷さんが立山チームのテーブルに来てくれて、最後まで立山チームと一緒に過ごしました。半谷さんが居たためか、みんなで一固まりになっていたせいか判りませんが、立山サポート陣は一步もテーブルを動かさず、タスクコンプリートは全然出来なかった様でした。かわいそう。

まっ、とりあえずパーティーは楽しく世界選のスライドも見れて、溜息ついたり感心したり、おいしい料理とワインで盛り上がりました。ちなみにこの日、パーティー会場のホテルに着いてから、斉藤君が妙にHiで、ワインを飲みちぎって今まで見たことない程酔っぱらいました。テントサイドに戻って、エネルギーのある人は夜遅くまで秘密の話に花が咲いた様です。

さて、2日目。ガスがかかって”今日も大会ないかもしれない”と言う雰囲気でしたが受付に行くと「今日こそは大会やるぜ！！」と言う清さん達の意気込みが感じられ、二日酔いの私としては”やっぱりあるのか！”と慌てました。清さんはいつも前向きでいい意味で触発されてしまいます。ちなみに斉藤君はこの日ダウンしました。



テイクオフ直前！！塩岡選手

テイクオフに上がり、まずはビギナークラスからと言うことで貴子ちゃんのサポートに行こうとすると美由喜さんから「自分の準備は出来てるの？」と声がかかりました。こういう一言は嬉しい！！

貴子ちゃんのサポートは男性陣に任せて各々準備にかかりました。昨日もそうだったけど、チャンポンが準備すると松田さんがしっかりサポート。貴子ちゃんも親分も初めてと言うことでサポート陣はしっかりサポート。私はと言うとまわりに冷たい風が吹いている。(ヒュー...)

涙を流しながら？準備しました。

ビギナークラスはデュレーションで、貴子ちゃんがテイクオフして行きます。がんばれ～。この日ビギナークラスは3本のデュレーションを行いました。よく粘って飛んでいます。”いい成績が取れるといいね”と心で祈っていました。

ビギナーが出た後エキスパートクラスのプリーフィングです。なんと条件が渋いのでデュレーションをしますとの事。ここで我等が親分まさよちゃんが一番最初にテイクオフ。かっくいー！！やっぱり親分は度胸があるよ。しかし、サーマルは渋そうで前の方で粘っています。私はと言うと、美由喜さんと一緒に飛べる機会はこのレディースカップくらいなので、美由喜さんのテイクオフに続いてテイクオフ。無風に近い条件だったのでなかなか浮かず、藪に突っ込みそうだったので大きく足を開いて避けて行ったらテイクオフでは「大股開きで出ていった！（かっぺいさん弁）」と笑われていたらしい。

渋いながらもサーマルがあって、やわやわ回していると、美由喜さんもやってきてあっという間に追い越して行く。早い！でも一緒に回せて嬉しい！なんて思っていると、美由喜さんはある程度高度

を稼ぐとスイッとテイクオフの尾根へ移動。ここは付いて行かねばと、必死で付いて行く。するときちんとしたサーマルがちゃんとあってさすが！と感心する。他の人達はテイクオフ前で上げきれず粘っていて、私はテイクオフのタイミングがよくとってもラッキーで美由喜さんと二人で良い思いをする。

しかし世の中そう甘くはなく、ランディングしてみると「もう一本やる」との事で再びテイクオフへ。2本目は短いながらもパイロンレースをやることになりました。

再び一人寂しく準備をしていると、それを見かねた半谷さんがやってきて声をかけてくれる。嬉しくてまたまた涙を流しながら準備をする。

今回はアレアレと思っているうちに上げれずテイクオフ前の斜面で大勢による粘り合戦に参戦する事に…。しかし、美由喜さん他数人が上げてパイロンを回り始める。ワンサーマル勝負だったらしくそれに乗り遅れた人は私を含め全員ランディング。大会主催者も”これではまずい”と思ったのか、たまらず無線誘導が入ったりと、レディースカップらしくて微笑ましい。何とか2本目も成立となりました。チャンポンはオリオンでこの渋い中健闘しましたが、そこは初級機の悲しいところ。いの一番にランディングし、この時「新しい機体を買おう！」と決意したらしい。レディースカップは機体販売促進にもつながる…ネ！まさよちゃんは2本目は慎重にテイクオフしようと言うことで、かず（田中一）さんに合図してもらうことに！しかし待ちきれずテイクオフ直前に撮影しなければならない看板を撮っては「まだ！！」と言われ、看板ばかり何枚も撮ってしまったらしい。結果は別表の通り。

貴子ちゃんと私は「これが欲しいなあ」と思っていた賞品がもらえてハッピー！でした。欲しいと思ってみるものですね。

2日間を通し、立山サポート陣は1本もフライトせず、陰に日向にサポートに専念して下さいました。サポート陣が居なかったら立山からは誰も出場出来なかったと思います。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

最後に出場した選手からメッセージ！！

塩岡 貴子 T.Shiooka

「貴子ちゃんも行こうね、レディースカップ。楽しいよ！」なーんて声をかけられてのこのこと付いて行っちゃいました。

一日目。脳がまだ目覚めきっていない状態で受付へ。ビギナークラスのリストには名前がチンマリ。「あれっ？5人しかいないんですか？」「うーん。もう2、3人は増えるかもね」こ、これはもしかしたらもしかして…」いきなり身の程知らずの事を考えてしまったのでした。

そしてまずビギナークラスがテイクオフへ。練習に一度連れてきて頂いたお陰で自分でも驚くほど緊張感がない。と言うよりも、むしろやる気満々。心の中では「早くやろうよ！」の大合唱でした。なのになのに強風の為しばらく様子を見ることに。その間空を眺めててちょっと居眠りもしてしまい、改めて緊張していない事を実感したりしていたのでした。結局この日はこのまま風が弱まらずキャンセルとなりました。

それから二日目。1本目はただ飛べただけで楽しかったです。一日目ずっと待っててキャンセルになったから。でも2本目は小さいサーマルに遭遇。やっぱり大会なんだし、と訳のわからない勝負魂が沸いてきて、粘れるだけ粘ってみました。ランディングでもスタッフの方から「頑張っていたねー」

と嬉しい一言。見ていて下さる方が居ることを有り難く思いました。3本目は、正直言って良く判りませんでした。周りの方々からは「リッジでもうちょっと粘れたよね」って言われたんだけど。

そしてそして、ドッキドキの結果は...。ライバルの少ない広き門だったお陰でなんと第2位。生まれて初めてトロフィーと言う物を手にして大感激！！同行して頂いた選手・サポーターの方々も一緒に喜んで下さって本当に嬉しかったです。

初めての大会でこんないい思いをしてしまったもんだから、また機会があれば大会に出たいなーなんて思ってます。でもその前にリッジの練習...かな？

清水 昌代 M.Shimizu

天候は今いちだったので残念でしたが、サポートの方達（斉藤君、高井君、田中君、島倉君、松田さん）の明るさでとても楽しい大会でした。デュレーションでは一番にスタート出来たので嬉しかったです。

長崎 雅美 M.Nagasaki

あっけなく地上に降りてしまいました。不覚でした。オリオンを卒業したいと思います。

レディースカップは色々な意味で楽しい大会です。女性フライヤーのみなさん、来年は一緒に参加しませんか？男性フライヤーのみなさんも、ここはひとつサポートしてやろうと言う方大募集です。本当に楽しいよ！！



レディースカップの選手と
気合いの入ったサポーター達。

島倉

松田・長崎・清水・田中
高井・塩岡・高林・斉藤

(敬称略)

第3回 トミーズカップ

Report:K.Fujino

今年とはとにかく天候に恵まれない。立山では春から”らいちょうパレーカップ第1戦”，第2戦”と開催されたものの、春は天候不順でキャンセル。（オープンクラスのみ1本成立）、夏はご存知の通り台風の影響で全く飛ばずにキャンセル。かくいうトミーズカップの方も、本当は7月27日に予定していたはずがあわや直撃と言う台風で延期。「今年は立山では大会は成立しない！」と思ったのは私だけではないだろう。事実、大会3日前の8月21日の夕方までは天気予報は”雨”で、絶望的な気持ちで天気図を眺めていたのである。しかし、だ。この夜、予報は劇的に変化し、24日は”晴れ”に。

そして、第3回トミーズカップは朝から快晴の絶好のコンディションの下で開催されたのである。

ビューティフルTake-off

テイクオフでは10時から開会式が行われ、大和会長から安全面に関する諸注意が選手全員に申し渡され、更に競技委員長より競技説明、ブリーフィングが行われ、しばし様子見の状況を経て10時40分にクラス2のゲートが開いた。

今年もクラス2は水運びレースだが、「テイクオフ時のキャノピー確認」が必須となり、水を付ける場所に苦労する選手も見受けられた。トップの選手がテイクオフし、サーマル山上空に差し掛かると条件はかなり良いらしくぐんぐん上昇して行くではないか。しばしのソアリングタイムと言ったところだろうか？次々にテイクオフして行く選手のテイクオフ技術は大変素晴らしく、我々パイロットも見習って初心に帰って練習すべきであることを思い起こさせてくれた。中にはラインが絡んでヒヤッとした選手も少なからずいたものの、適切なコントロールと誘導により事なきを得た。ランディングでも、少々伸びたりショートしたりと様々であった様だが、賑やかに、和やかに競技は進行して行った。

これが本当の一斉スタート

クラス1のタスクが発表された。タスクは”レースtoゴール”の19Km。空中一斉スタート方式が採用された。昨年採用された”一斉スタート”だが、今年は本当の意味での一斉スタート，“空中一斉スタート”が念願？かなって採用出来た訳だ。

今年のタスクは、極楽坂テイクオフのリフト降り場にスタートマーカが開いた時点（12時）から

一斉にレースが開始され、3番, 1番(パラダイス), 3番, 5番, 3番, 1番, 4番, LD1(ゴンドラLD時計台)のアウトアンドリターンを基本としたミドルタスクだ。ゲートオープン11時35分。選手は続々スタートして行く。マーカーオープンまでは25分しかないのだ。

ベストポジションでレーススタートを狙う選手にとっては既にレースが始まっているのだ。マーカーオープン5分前には、遅れてテイクオフした長谷川選手以外は全員極楽坂上空に待機し、いつでもスタートOKの状況であった。

スタート勝負！熾烈なスピードレース！！

マーカーオープン10秒前からカウントダウンが始まり、タイミングを図りながら選手が動き出す。「マーカーオープン！」と同時にベストスタートを切ったのは、ベテラン勢でもトップクラスの高松選手だ。続いて優勝候補の呼び声高い阪本、本馬、佐藤選手が追撃する展開になった。しかし、一斉スタートは端から眺めるとかくも素晴らしい眺めだったとは！圧巻である。選手が規則正しく一斉に3番パイロンに向かって移動を開始するのである。これを見る事が出来ただけでも大会に参加した価値があったと思う。それ位見応えのあるシーンであった。

さて、レースの方は金山へ到達する頃にはトップを走る高松選手は強めのアゲンストとオーバーセールの機体が祟ってか？徐々に差を詰められ、やがて抜かれてしまう。金山付近から3番にかけてはかなりの条件が整っているらしく、マーカーオープンからわずか5分後に1番めがけて阪本選手がダイレクトに突っ込んで来た。そのわずか100m後方には本馬選手、その50m後方には佐藤選手が続くデッドヒートが展開されていた。

セオリーか？勝負か？

1番パイロンを取りに行くコースが真っ二つに分かれた。トップ集団が行ったダイレクトコースと、尾根を一旦経由するセオリーコースだ。セオリーコースはベテラン勢が多かった様に思う。確実なレースを組み立てたのだろう。この結果、トップグループとセカンドグループがくっきりと分かれ、コンペペ慣れしている阪本らは終始パイロン間を直線的に結んだコースをセンタリングする事なく進み、歴然としたスピードの差を見せつける。

トップグループのスピードはかなりのハイスピードであった。追撃する本馬、佐藤選手も阪本選手との差はなかなか詰められず、最終パイロンの4番を回り込んだ時点でもその差は変わらなかった。そして、12時40分、わずか40分でトップゴールを決めたのは終始持ち前のスピードを崩さなかった阪本選手だった。その3分後に本馬選手、更に1分遅れで佐藤選手がゴールし、高松選手は阪本選手から遅れること6分後であった。

驚異！全員ゴール！

トップの阪本選手がゴールしてからも続々と選手がゴールに飛び込んでくる。中には4番パイロンから最後のデッドヒートを繰り広げながらゴールした選手もいたらしいが、クラス2の競技が終了した13時30分頃には全選手がメインランディングに居た事は特筆に値する。結果的には写真の現像ミスやセクターミス、パイロンミス等によってゴール者13名、タイムなしでゴールは認められなかったもの

の19kmフルパイロンが4名の合計17名が成績上でのフルパイロンとなり、条件にも助けられたものの、選手全体のレベルの向上が見受けられる大会であった。今回は、もっと写真の撮り方やセクターを学習して参加して欲しい。

クラス2は、ターゲットは踏めなかったものの、2本ともに200cc以上の水を確実に残した水野選手が優勝した。こちらで特筆すべき点は、トップ6に大会直前に高高度フライト（初飛び）をした選手（生徒）が含まれている点だ。4位の野上選手、5位の大野選手らがそうで、大野選手に至っては、昨日（23日）初飛びしたばかりであった。おそろべし！！

とにかく、こうして無事に大会が終えられた事は、毎回思うことではあるが何にもまして良かったと言う事だ。これも、大会を支えてくれるスタッフやスクール、クラブ員やスクール生のみなさんのおかげである事は言うまでもない。

これに懲りず、次回はもっともっと素晴らしい飛びやレースが出来るようにみんなで精進しようではないか！（スタッフもがんばって！！）

入賞者のみなさん。おめでとう！！



- 写真左上 クラス2の入賞選手のみなさん。
- 写真左下 クラス1の入賞選手のみなさん。
- 写真右下 クラス1の選手のテイクオフ



トミーズカップ クラス1 得点集計表

ハミングバード PGC・競技委員会

順位	No	選手氏名	機体	S.T	G.T	F.T	D	S.P	D.P	得点
1	11	阪本 猛	GENESIS	12:00	12:40	0:40	19.0	350.00	650.00	1000.00
2	21	本馬 竜夫	SECTOR	12:00	12:43	0:43	19.0	325.58	650.00	975.58
3	6	佐藤 裕	SABER	12:00	12:44	0:44	19.0	318.18	650.00	968.18
4	13	高松 俊夫	SECTOR	12:00	12:46	0:46	19.0	304.35	650.00	954.35
5	20	江上 祐司	GENESIS	12:00	12:47	0:47	19.0	297.87	650.00	947.87
6	1	田中 一浩	ENERGY	12:00	12:50	0:50	19.0	280.00	650.00	930.00
6	7	斉木 秀司	ENERGY	12:00	12:50	0:50	19.0	280.00	650.00	930.00
8	14	高林小百合	MERAK	12:00	12:54	0:54	19.0	259.26	650.00	909.26
9	12	森田 孝一	XYON	12:00	12:55	0:55	19.0	254.55	650.00	904.55
10	15	塚本 隆暢	XYON	12:00	12:59	0:59	19.0	237.29	650.00	887.29
11	9	金田 功男	MERAK	12:00	13:05	1:05	19.0	215.38	650.00	865.38
12	2	井上 文一	SABER	12:00	13:09	1:09	19.0	202.90	650.00	852.90
13	4	岡崎 洋司	SABER	12:00	13:18	1:18	19.0	179.49	650.00	829.49
14	3	島倉 浩一郎	SABER	12:00			19.0	0.00	650.00	650.00
14	10	早風 慎也	S-SPACE	12:00			19.0	0.00	650.00	650.00
14	16	平田 透	SABER	12:00			19.0	0.00	650.00	650.00
14	19	長谷川正巳	S-SPACE	12:00			19.0	0.00	650.00	650.00
18	18	川岸 信勝	SABER	12:00			13.3	0.00	455.00	455.00
19	5	松田 勲	SPHINX	12:00			8.7	0.00	297.63	297.63
20	8	福原 政秀	SABER	12:00			6.3	0.00	215.53	215.53
21	17	河合 利明	SABER	12:00			0.0	0.00	0.00	0.00

トミーズカップ クラス2 得点集計

ハミングバード PGC・競技委員会

順位	No	選手氏名	水残量 1	ターゲット 1	得点1	水残量 2	ターゲット2	得点2	合計	大会得点
1	15	水野 洋	232.7		465.4	257.9		515.8	981.2	1000.00
2	4	杉本 康隆	192.5		385.0	158.0		316.0	701.0	714.43
3	10	浅川 義丈	105.7	1	253.7	206.4		412.8	666.5	679.25
4	12	野上 洋子	138.6	1	332.6	148.7		297.4	630.0	642.11
5	14	大野 晋也	195.0		390.0	87.3	1	209.5	599.5	611.01
6	7	山手 幸一	186.1	1	446.6	49.0	1	117.6	564.2	575.05
7	13	西尾 忠士	145.9	1	350.2	101.7		203.4	553.6	564.17
8	2	若林 知美	43.6		87.2	180.6		361.2	448.4	456.99
9	1	塩岡 貴子	171.4		342.8	32.4	1	77.8	420.6	428.62
10	6	土田 博	11.0		22.0	153.9		307.8	329.8	336.12
11	3	広瀬 良彦	145.3		290.6	11.2	1	26.9	317.5	323.56
12	16	谷井 和之	89.1	1	213.8	42.3	1	101.5	315.4	321.40
13	11	福井 昌弘	109.5		219.0	13.4		26.8	245.8	250.51

会員探訪

気になるPILOT！！

阪本 猛

Takeshi Sakamoto



勝因はフライトスピード！！

TN：遅ればせながらトミーズカップクラス1優勝おめでとうございます。

阪本：ありがとうございます。学生最後の年にカップに名前を残すという念願が叶って嬉しいです。

TN：今回は前評判通りというか見事な優勝でしたが、勝因は何だったのでしょうか？

阪本：そうですね。いろいろあるでしょうが一言で言うとフライトスピードでしょうね。「機体の速度」ってだけじゃなく「タスク処理の組立」「アクセルテクニック」「パイロンの撮影技術」がホンの少しだけ上回った結果じゃないかな？

TN：今回は「競技委員長」と言うことで、テイクオフからレースの状況を観察していたのですが阪本君のスピードは尋常ではありませんでしたね？特にみなさんに「タスク処理の組立」について詳しく解説して頂けませんか？

阪本：簡単に言うとタスクをこなす場合に、どこで上げてどの高度で次のパイロンに進むかと言うことです。今回はスタート後は一度も回さないというのが必須条件でしたので、余り複雑なものではなかったですけど。

TN：いやいや。それにしても「どれ位まで高度を稼いで、その高度をどのように使うか」とか、アウトアンドリターンの最中で、マージンを徐々に減らして行ったり、沈下の少ない速度やコースを選択したりと、考える事はたくさんある訳ですよね？実際は一斉スタートのヨーイ・ドン！だったから、まわりを見れば自分との差は歴然で判りやすかったと思いますが、その中でも駆け引きみたいなものはあったと思うんだけど、そこらへんも教えてくれませんか？

阪本：うーん、そうですね。心がけていたことと言えば、僕は「突っ込み型」でよく『トップで走っても、突っ込みすぎて上げ直している間に交わされる』と言うことがよくあったので、今回はそうならないように考えていましたね。具体的には「後ろを見て余裕があれば安全第一で進む」ってことですね。だからコース取りは尾根沿いが多かったです。たぶん追い上げようとしていた人よりも。

飽きっぽかったからコンペを始めた

T N：なるほど！さて、話は変わりますがパラを始めたきっかけなんかを教えてください。

阪本：きっかけは鳥のように飛びたかったから。小学生の頃の夢だったかな？大学2年の時に本で調べてスクールに電話しました。

T N：大学2年と言うと、今から4年くらい前になりますね？

阪本：5年・・・かな？でもマスターコースに進んだのは3年前です。

T N：マスターコース時代から、めきめきと頭角を表してきたと思うんだけどコンペをやろうと思ったきっかけは何だったんでしょうか？

阪本：エアロタクト主催のオープン大会が2年前にあってそれに出たんです。動機は・・・よく覚えてないけど誰かに誘われたんだと思います。その結果がひどいもので初日は遅刻（当然0点）。23日目も奮わず目立たない順位で終わってましたね。やっぱり悔しかったですよ。それで「ちくしょー」って（笑）まあ、このときは悔しがってるだけでコンペを目指した理由ではないんですけどね。コンペを目指した直接の理由は僕の『飽きっぽさ』にありました。

T N：飽きっぽさですか？

阪本：ええ、僕はすごい飽きっぽいんです（笑）初フライトではとても感動したのに飛んでるうちに「なるほどこういうものか」とコツがわかると「飛ぶのにも飽きてきたなー」と思いましたよ。それで仕方ないからピッチングやローリングでジェットコースター感覚を楽しむことにしました。で、それも飽きてくるとソアリングに楽しみを見つけて・・・でもついにソアリングもわかってしまうとただ浮いてるだけではヒマで仕方なくなってしまうんです。その時こう思ったんです「これだけ投資したのにやめるわけにはいかない！何か他に楽しむ方法はないか？」って。それでコンペをやろうと思いました。これは正解でしたね。だって2年経った今も飽きてないんですから（笑）とにかくコンペの奥の深さに夢中になっていきました。それにコンペのそれ以外の楽しみも見えてきましたし。

T N：コンペのそれ以外の楽しみとは？

阪本：ええ、全国に知り合いが出来ることです。それでまたその人たちに会えるからコンペに行くのが楽しみになる。相乗効果でどんどん知り合いが増えました。楽しいですよ。

T N：パラを始めて生活というか、身の回りで変化はありましたか？

阪本：交友関係の変化が大きいかな。僕は一応学生なんですけど、大学では社会人の知人や友人は出来ないから。あとは街に行かなくなったこと。買い物もしない。着る物はスクールで買うからなあ。

T N：確かに学生で社会人の友人はなかなか出来ませんね。私なんかもそうですが、結構”パラ一色”って言うか、山に居る時間が長くなりますよね？

阪本：始めた頃は特に（笑）。まあ今でもそうですけど。雨が降ってても「誰かいるかなあ？」と思って山に行っちゃいます。

T N：パラ以外で趣味とか熱中している事なんかありますか？

阪本：去年からアルペンのスノーボードを始めたのでそれかな？前述の通り飽きっぽい性格なのでかじってる趣味は色々ありますけど熱中してるというとやっぱりコレかな？

T N：スノボもかなりの腕前と聞いていますが（笑）

阪本：いえ、まだまだ素人に毛の生えた程度です（笑）僕は運動不足の為に体力がないので体力をつけることが今後の目標です。

T N：そう言えば昨シーズンはかなり入れ込んでいたみたいですね？

阪本：やり始めでしたから。何でもそうじゃないですか。新しいことを覚えてどんどん上手くなっていくと楽しいですよ。でも去年までは力が無くてもゴマカシがきいたんだけど、今年からは体力が無いと成長しない域にきたと思うのでツライです（笑）

立山で飛んでいるみなさんはとてもラッキーだと思う

T N：就職も内定されたそうですが、重ねておめでとうございます。

阪本：はい、おかげさまでNHKに行くことになりました。みなさんとの付き合いで磨かれた人生観（大げさ？）のおかげで就職活動を有利に進めることが出来ました。

T N：NHKですか。素晴らしいですね。メディアに就職と言うと、アナウンサーとかADとかの制作系か、カメラや調整関係の技術系などがあると思いますが・・・。

阪本：技術系です。工学部ですので。休みの多いことを祈るばかりですね。

T N：今は学生（大学院）ですが、社会に出る事について目標とか希望なんかはありますか？

阪本：これまでは「いかに金を作るか」がポイントだったんですけど、これからは「いかに時間を作るか」が大事になりますよね。要領よく仕事も遊びもこなせたらいいなあ。

T N：就職するとなかなかパラは出来そうもないですか？

阪本：どこに赴任するかはサッパリ分からないんですけどパラをやめることはないです。立山にも来たいし、たまにコンペに出れるくらいは飛んでたいんですけどね。でもまあ、諸先輩方を見てみると問題は無さそうですけど（笑）

T N：確かに（笑）。でも、最初から要領良くなんて言ってないで、まずは物事の手順と言うか、とりあえず一通りこなせる様になって、その上で”何が必要で何が不要か”とか、その時々に応じたプライオリティー（優先付け）を付けられる様になれば、効率良く仕事がこなせる様になると思いますよ！！

阪本：うーん、奥が深い。とにかく頑張ります。

T N：最後に、パラをやって良かった事とか、今現在も飛んでいる人なんかに言いたいことがあればお願いします。

阪本：立山で飛んでいるみなさんはすごいラッキーだということを言いたいですね。富山市内から車で1時間、エリアは全国の猛者が大会に集まるほどの好条件、そしてしっかりしたスクール、豊富なラインアップを揃えたショップ、これだけの条件のそろっているエリアは少ないでしょう。これからもずっとこのエリア&スクールが存在し続けるようにみなさんで盛り立てていって欲しいですね。

T N：なるほど。私達はこの立地条件や環境が当たり前になっている感がありますからね。みんながそう言った事を認識しながら楽しく飛べたらいいですね。今日は本当にありがとうございました。社会人になっても、必ず立山に来るのだぞ！！

阪本：はい、遊びに来ます。

Information

‘ 9 7 クラブ忘年会のご案内

毎年恒例になっておりますクラブ主催の忘年会のシーズンがやってきました。このシーズンになったということは、フライトシーズンが終盤～冬眠体制？に入ったってことでしょうか？

個人的には冬はあまり好きではないのですが、クラブ員、スクール生入り乱れての忘年会は、毎回楽しい出し物？があり楽しみです。

今年も以下の要領で開催致しますので、会報に同封したハガキに必要事項を記入の上、11月21日必着にて返信下さるようお願いいたします。

日時：12月13日（土）

宴会は、19時～21時

場所：白樺ハイツ

出欠：欠席・出席・（宿泊希望）（日帰り希望）

会費：宿泊（¥12,000）男女問わず・日帰り（¥8,000）

会費は当日徴収致します

ハガキの返却締め切り日：11月21日（金）

（備考）

チェックイン：PM3:00からOK

チェックアウト：AM10:00まで

（宴会での催し物予定）

有志（スクール生）による出し物

ビンゴ大会

セルフコンペ‘97 表彰式

他

（出し物については、事前にご連絡頂ければ調整致します）

次号のご案内

まずは今号の発行が大変遅れましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、次号は

特集・・・「事故・アクシデントレポート！！何故そうってしまったのか?!」

忘年会密着取材！楽しい様子を紹介します。

会員探訪（誰になるのか？お楽しみ）

お楽しみに！！

会報編集部

シーズンが終わろうとしています。今年は天候に恵まれず、なかなかいいコンディションでフライトされた方も少ないのではないのでしょうか？いいコンディションの時にエリアに居る事自体がラッキーだったと言っても過言ではないシーズンだったように思います。

この傾向は立山だけでなく、全国的に天候に泣かされ、ナショナルポイント戦に至っては、決まって週末にやってくる台風や低気圧に阻まれ、ことごとく不成立となっているのです。岩手で行われた日本選手権に至っては、飛ぶには飛んだが1本も成立せずは無念のキャンセルになっています。私が久々に行った尾神の大会も雨でキャンセル。もうどうにでもして！って感じでしょうか？

さて、来年はどんな年になるのでしょうか？今年みたいに天候に恵まれない年にはならないようにしてもらいたいですね。思いっきり楽しく飛んで、事故のないシーズンを過ごせるようにみんなで頑張りましょうネ！！

(P i k a i c h i)

話題の提供・ご意見・原稿の投稿は...

F A X (0 7 6) 2 4 0 - 6 6 9 2 藤野 光一宛
(0 7 6 4) 8 1 - 1 5 5 1 J M B 立山パラグライダーズスクール内
ハミングバード P G C 事務局広報宛

ファイルで投稿希望の方は...

3.5インチFD(1.2MBまたは1.44MBフォーマット)にTXT形式で保存された
ファイルを事務局へお持ち下さい！！

電子メールで投稿希望の方は...(インターネット、BBS経由)

以下のアドレスへメールして下さい。

QZI01576@niftyserve.or.jp 藤野 光一宛

TATEYAMA NOTAM

タテヤマノータム：第6号 1997年11月3日発行

編集発行人
発行所
事務局

藤野 光一
ハミングバード P G C 広報委員会会報編集部
〒930-14
上新川郡大山町本宮らいちょうバレースキー場 レストランふじ内
J M B 立山パラグライダーズスクール ハミングバード P G C 事務局